



平成 20 年 3 月市議会定例会の開会にあたり、中川市長は、施政の所信を次のように述べました。(本文のみ)

平成 20 年度も引き続き、「全国に誇れる魅力ある加西市の創造」を施政の大方針として、加西の素晴らしい地域資源と立地条件を最大限に生かして、若者が夢を持ち、高齢者は生き甲斐を持って、元気で長生きできる地域づくりに精励します。

私は、魅力あるまちとは、若者が定住でき、他都市の住民も住みたくなるようなまちであると考えます。質の高い行政サービスを効率的に提供することで、新規企業立地も促進できます。同時に、内外各地からヒト・モノ・カネ・情報などが集まるようになれば、経済活動や地域間交流も活発になります。

本年の市政の最重要テーマは、一つは教育・子育て、もう一つは環境・CO₂削減であると考えています。市財政は依然として厳しい状況にはありますが、財政再建の方向性や具体策については、改革マニフェストにおいて体系的に纏め、その実現に向けて取り組んでおり、中には既に目標達成したものもあります。

お陰様で、低落の一途であった財政状態も、この 2 年余りの間に反転傾向・上昇軌道が見えはじめました。

昨年からの大きな懸案事項とし

ては、まず加西病院の医師確保と健全経営の問題、もう一つは職員採用問題の決着とより良い選考方法の確立がありますが、既にそれぞれ第三者委員会を立ち上げ、外部有識者のご議論をいただいているところです。

1 点目、教育・子育てに関してですが、将来を担う子供たちが、元気ですくすくと育ち、立派な人材となるよう教育・子育て分野へ限られた財源を振り向けます。企業誘致による雇用確保とともに、質が高く特色ある公教育を実現することで、市内への定住を促進したいと考えています。

学校施設や給食センターの整備問題については、経営改革委員会や外部有識者などの意見も参考に、児童生徒数の動向を見据え、学校配置などの将来像を示したいと考えています。

市内には、小学校 11 校、中学 4 校、特別支援学校 1 校、計 16 校あり、市立の幼稚園・保育園・給食センターも加えると、いずれ建て替えを要する教育・子育て施設は 38 施設に及びます。今後、各施設の老朽化と経年劣化が更に進めば、毎年のように、市内のどこかで教育・子育て施設の建設工事が続く事態になりかねません。

したがって、将来的な人口減少や財政負担を念頭に置けば、老朽施設は、地域の幼稚園・保育園と小学校・中学校などの統合を進めながら、一体の施設として建て替えていくことも検討しなければなりません。

向う 4 年間は、市財政が大変厳しい状況ではありますが、教育関連施設の整備には PFI ほかの手法も活用するなどして、前倒しで取り組み、できるだけ早期に整備されるよう最善の努力をする所存です。

その際、単なる入札方式ではなく、プロポーザル方式を導入することで、デザイン性に優れ、内容充実かつ質の高い公共施設として整備したいと考えています。

2 点目の環境問題については、ごみの削減、分別の強化、再資源化の促進、不法投棄対策などに取り組むとともに、省エネ効率が高く、地球温暖化対策上も有効な、次世代のごみ焼却技術や下水汚泥の資源化方法などについても、近い将来の機能更新も視野に入れつつ、具体的な調査・検討に着手します。また、環境をテーマとして、環境教育や環境農業、そして環境と景観のまちづくりにも注力します。

国際的な政治・経済・社会構造の変化の中で、近年、行政課題は益々高度化・複雑化しています。ハード主体の従来型公共事業では、まちの活性化は期待できなくなっています。

むしろ、財政の厳しい加西市は、お金のかからないソフト事業を通して、全国自治体の先行事例・モデル事例となるような、新機軸の施策を展開していきたいと考えています。

生涯学習や公民館活動は、市民の新たなライフスタイルや文化の創造活動であるとともに、まちづくりの原動力となるべきものです。他地域・他産業・異文化・外国人など、私たち加西市民が外の世界と交流し、コラボレーションすることで、加西の新たな文化やニュービジネスを生み出し、さらに情報発信することができます。

よそ者や新技術などを受け入れやすいまちとすること、換言すれば、加西市を開かれたまちとすることが、加西発展のためにはとても大事なことと考えます。

行政サービスの質の良し悪しは、それに携わる人材に左右されます。市役所改革と市民サービス向上のために、市役所にいない職能をもった人材を必要とする場合は、3 年ないしは 5 年という期間を定めて任期付職員を任用することで、柔軟に人材を確保できるようにします。

一方、新しいことにチャレンジし、クリエイティブに行動できる人材、新しい時代の行政ニーズに

対応でき、将来の加西市を切り開ける優秀な人材を育成するため、国・県などとの人事交流を更に進めるとともに、国内大学院への留学制度や自主研修助成制度を創設するほか、民間企業等での研修もスタートさせたいと考えています。

全国各地の自治体の中で、活力のあるまちに共通するのは、市民参画が定着し、市民が行政に依存せず、市民が行政を先取りしてまちづくり活動をしているという点です。これからは、市民参画・男女共同参画とともに、官民・公民の連携が大切です。

そのため、大学などが保有する知的財産をまちづくりの資源として取り込むことで、豊かな地域社会を創造する「産学官の連携・協働によるまちづくり」を積極的に推進する所存です。

人員面や予算上の制約から、今までの事務・事業をこれまで通りのやり方で行う自治体経営は、加西市においても、既に立ち行かなくなっています。効率的な行政運営のためには、優先度・緊急度も考えながら事務事業の「選択と集中」を進めることが不可欠です。

都市計画の面では、高齢化社会に対応した高齢者に優しいまちづくり、そして人口減少社会に備えてコンパクトシティを政策誘導することも大切であると認識しています。産業政策の面では、これからの産業構造の変化を想定した企業立地施策が必要です。

また、加西の素晴らしさを再発見し、それに地域の伝統文化・食材・味覚・芸術などを付加することで、観光振興をしたいと考えています。加西そば大学の創設もその一環です。

質の高い行政サービスを低コストでタイムリーに提供するべく、改革マニフェストに沿って、引き続き事務事業の見直しや業務の効率化を図ります。新たに生じた改革課題に対しては、改革マニフェスト項目に追加して取り組みます。

そして、「子供にツケを回さない」を合言葉として、分かりやすく正しい公会計を実現することを通して、県下はもとより全国の自治体に先駆けて、市民・納税者のための行財政改革を鋭意推進していく所存です。

今加西市役所に求められているのは、新しい時代に合わせた行財政運営の仕組みづくりと職員の意識改革であると認識します。

納税者の苦勞に思いを致せば、税金の無駄使いは断じて許されませんし、負担の公平を考えれば、滞納者に毅然とした処分をすることは当然のことです。

今後、市役所の意思決定を早め、業務効率を高めて、市民の皆様のニーズに即応しながら、加西市再生に邁進いたします。

詳しくは加西市役所ホームページをご覧ください。
<http://www.city.kasai.hyogo.jp/>

免許をとって出掛けよう!!

「入校日は毎週土曜日と月曜日です。」
ペーパードライバー教習実施中
☆無料体験入学 受付中
◎ご希望(時間・場所)に応じた送迎。
◎ローンの利用もできます。
◎託児室あります。

スタッフ紹介コーナー (毎月連載)
●福嶋 淳
どちらかと言えば、理屈屋だと思いきも基本を大事に出来るというので、おねのづきまは、よい方ではないですが、自分なりに頑張るので、一緒に頑張っていきたいと思います。

加西自動車学院
初心運転者教育や高齢者講習などを通して地域の交通安全の推進に貢献して参ります。
加西市殿原町620 フリーダイヤル ☎0120-81-8289
姉妹校 加東自動車教習所
加東市松沢字依藤761-5
フリーダイヤル ☎0120-46-1284